

じゅしゅう

秋季彼岸会 厳修

九月二十三日、お彼岸の中日に浄覚寺「秋季彼岸会」のご法要を開催しました。

お盆の法要は残念ながら中止となり、インターネット配信法要だけとなっております。ありがとうございました。無事につとめられたことは素直に嬉しく思います。

さて、ご法要はご参詣いただいた皆さまとご一緒に正信念仏偈(行譜)をおつとめし、お聴聞の時間を過ぎることができました。

ご講師の先生は兵庫県西宮より赤井智顕先生。ご讚題には本願寺出版社から出ている『拝読浄土真宗のみ教え』より「お彼岸」のページをお読みいただきました。

まずは彼岸とはなんぞやというお話しから始まり、仏事は「私」が仏法に出遇うご縁ですから、この度の法要の主人公は「私」であること。また、阿弥陀さまの願いやはたらきも、その「私」のためにあるんだということをお伝えくださいました。例えば、仏説阿弥陀経に三十八回も出てくる「舍利弗」という言葉を自分の名前に置き換えてもいんですとのこと。阿弥陀経という経典は、お釈迦さまのお弟子であった舍利弗さんに、お釈迦さまは何度も呼びかけながら、阿弥陀さまのお浄土のこと、お念仏のこと、私にかけてくだ

さったご本願の素晴らしさを伝えようとされている構造になっています。その願いは私のためにあるのですから、私の名前を呼んでおられるのだと味わいます。彼岸とはお浄土のことです。また、此岸(娑婆)と対になる言葉でもあります。此岸に生きる私たちに、浄土といういのち終えて生まれていくさどりの世界があることの有り難さをお伝えいただきました。そんないのちの有り様を聞かせていただくからこそ、安心して生活ができるのです。

第42号
(通算382号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・10月19日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆皆さま、お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

今回の法要もご法話の様子を収録させていただきました。少しだけ編集する時間をいただいで、当山のYouTube「浄覚寺チャンネル」にアップしようと思っています。できましたらホームページなどを通してまたご案内させていただきます。ぜひご覧になってください。



西の岸の上に

人ありて

喚ばひていはく

なんぢ一心正念にして

ただちに來れ

われよく

なんぢを護らん

善導大師『散善義』



御文章に聞く(第37回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙
今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思えます。タイトルでもあり、文頭でもある

末代無知章(五帖第一通)
末代無知の・在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして・阿弥陀仏をふかたのみまいらせて、さらに余のかたへこころをふらず・一心一向に仏たすけたまえと申さん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも・かならず弥陀如来はすくいませすべし、これすなわち・第十八の・念仏往生の誓願のこころなり、かくのごとく決定してのうえには・ねてもさめてもいのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり、あなかしこ あなかしこ

「末代無知」という言葉です。「末代」というのは浄土真宗七高僧の一人、中国の道綽禪師が三時思想とすることを言われました。お釈迦さまが亡くなられて五百年(千年の説もあります)は「正法」という時代で、正しい教えがあり、教えに則り正しく修行される者があり、そして悟りを得られた方がおられる時代です。その後、千年間は「像法」という時代で、正しい教えや修行者はいても、もう正しく悟られる人はいなくなった時代です。そして、その後の一万年は「末法」の時代で、教えだけが残るのみとなり、修行者も悟りを得る人もおられなくなつた時代です。現代の令和の時代も、蓮如上人のおられた室町時代も同じ末法、つまり末代の時代なのです。「世も末だ」と今でも使うことがありますね。

仏教語辞典



浮世

人の世のことを言う。ふわふわと浮いたように移り変わっていく人生を浮生というところから名づけられた。また、浮世は憂世(つらい世の中)とも書き、仏教の無常観が的確に表現されている言葉である。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。またかと思われるかもしれませんが、ご報告です。九月の一ヶ月間で四度の雨漏りが起こりました。今回は本堂の中ではなく、本堂と庫裏(座敷や住居部分)との継ぎ目のところでした。本堂は約二百五十年前の建物ですので、今でいう基礎はなく、大きな石の上に柱を置いてるだけですが、もしも地震が起きたときには、地面と繋がっていませんから、揺れを逃がしてくる利点があります。それに対し庫裏はしっかりとした基礎の上に繋がって家が建っています。こちらは地震の時には建物も一緒に揺れてしまいます。継ぎ目のところが弱いのは当然かもしれません。実はだいぶ以前にも雨漏りがありました。雨が入る箇所を塞いでもらうていました。今回はそれを超えたのかもしれない。専門家に確認していただき、総代さんたちにご相談させていただきながら、少し補修を考えております。(釋法道)

行事案内

日時・十月十五日(土) 十四時・十九時
行事・永代経法要(開闢法要)
場所・長原 浄覚寺
法話・義本弘導 先生(大阪)
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)